

令和7年度全建賞 推 薦 調 書
インフラ整備の事業又は施策の部(インフラの部)

実施機関名(主事業の実施機関名)	五島市産業振興部水産課
ふ り が な	ごとうにしぎょこう(さかのしまちく)さいがいふっきゅうじぎょう
1. 事業(施策)の名称	五島西漁港(嵯峨島地区)災害復旧事業
2. 事業(施策)実施期間(和暦)	令和5年3月27日 ～ 令和7年5月30日
災害枠	(災害発生日) 令和4年9月6日 (災害名)令和4年 台風11号
3. 事業費(工事費)	1,437百万円
4. キーワード	防波堤、災害復旧事業、災害関連事業
5. 事業概要	長崎県五島市三井楽町の五島西漁港(嵯峨島地区)において令和4年9月6日の台風11号により重要な施設である外防波堤の堤体(ケーソン9函)が135m にわたり移動・破損・傾斜するという被災を受けた。今回の被災波を算定したところ、設計当時の設計波よりも高かったことから、原形復旧では計画外力に対し不安定であり、再度災害防止を図る観点から、災害復旧事業と併せて関連事業を活用し、外防波堤の一体的な強化を図るとともに、資材及び現地発生材の再利用によるコストの縮減や「残置型枠工法」の利用により、施工の効率化及び安全性の向上を図った。

6. アピールする事業又は施策の「手段」と「秀でた成果」		
ハード or ソフトの分類 :該当する方に○印	① ハード面 に秀でた事業	② ソフト面 に秀でた取組
アピールする 1)「手段」	(b)新しい建設技術の導入・活用 () () () ()	() () () ()
アピールする 2)「秀でた成果」	(b)コストの縮減 (k)施工の合理化・効率化 () ()	() () () ()

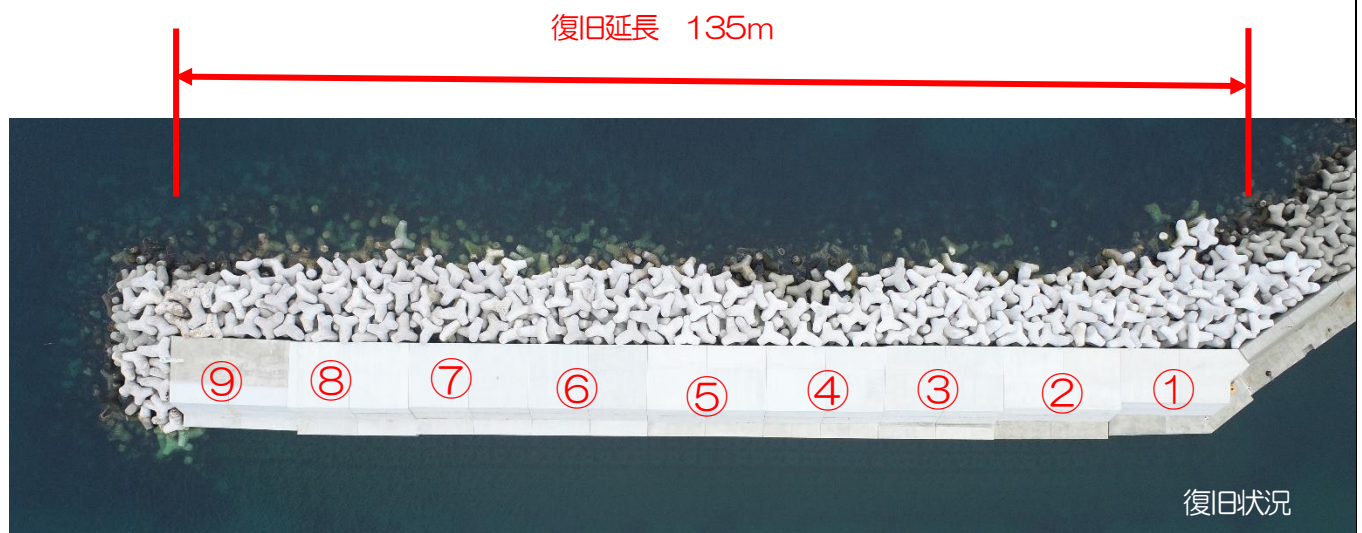
7. 特にアピールしたい点

令和4年9月6日の台風11号により五島西漁港(嵯峨島地区)の重要な施設である外防波堤の堤体(ケーソン9函)が135m にわたり移動・破損・傾斜するという被災を受けた。当初設計波 4. 4m、5. 2mに対し、今回の被災波を算定したところ、被災波5. 7mとなることから、再度災害防止を図る観点から、外防波堤の一体的な強化を図った。

復旧にあたっては、ケーソン2函(⑥・⑦)を再設置するとともに既設ケーソンの中詰め砂及び破砕したケーソンの上部工(無筋コンクリート)をケーソン3函(⑥・⑦・⑧)の中詰め材に再利用することでコストの縮減を図った。

また、水中部の腹付け施工にあたって「残置型枠工法」を採用することで、従来の施工と比較して施工の効率化・安全性の向上を図った。

8. 事業を代表する写真及びキャプション



9. 事業内容・添付資料〔特徴を示す写真、諸元(位置図、標準断面図、施策のフローチャート、P Iの方法 等)〕

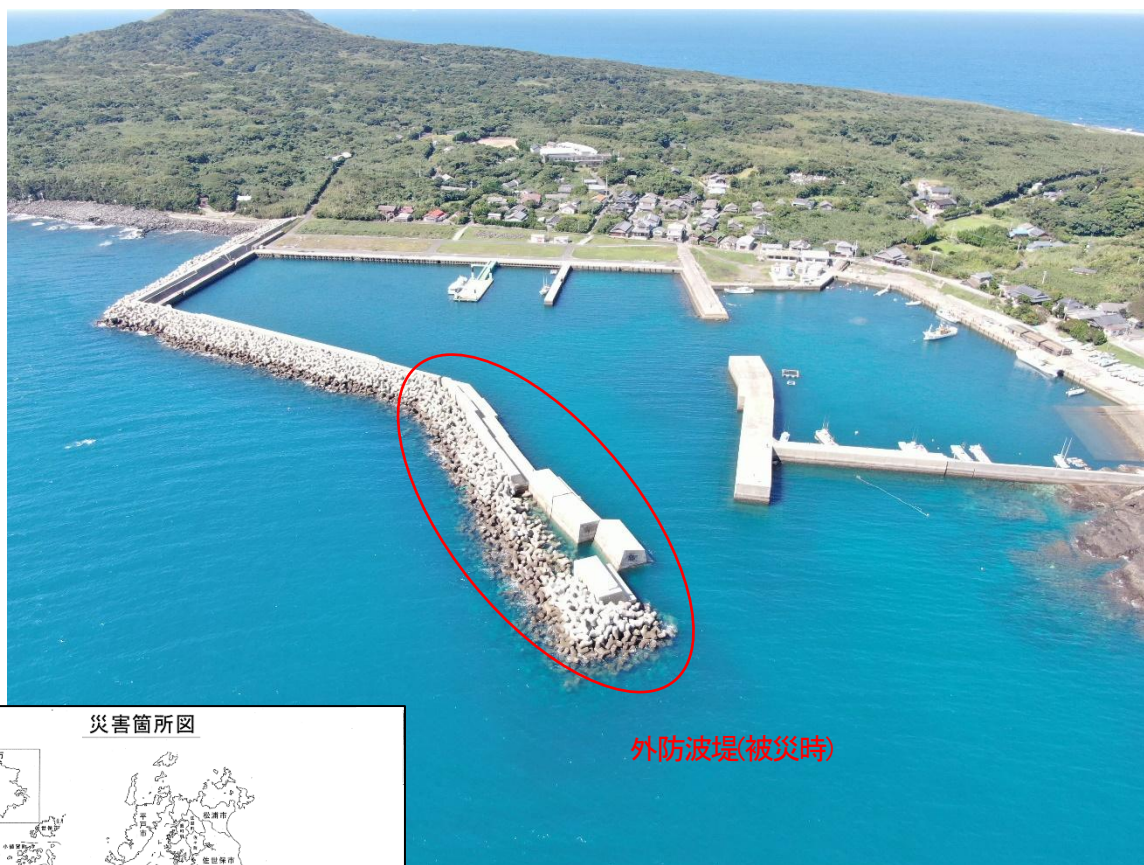
五島西漁港(嵯峨島地区)は、五島市西部に位置する第1種漁港であり、近傍に好漁場があることから、地域経済を支える基幹産業として栄えてきた漁港である。

外防波堤は平成3年から平成14年にかけて整備され、港内の静穏度を確保するための大きな役割を果たす防波堤であるが、令和4年9月の台風11号により延長L=135m(ケーソン9函)が移動・破損・傾斜するという被災を受けた。

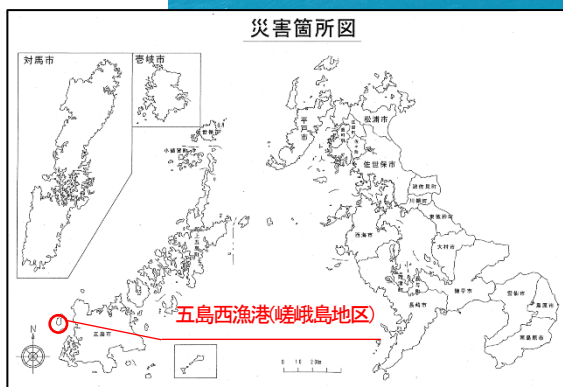
地元漁船及び定期船の安全航行や港内静穏度を早期に確保するために災害復旧を行うとともに設置当時を上回る被災波が確認され、再度災害防止を図る観点から災害関連事業を活用して、被災箇所を一体的に改良することにより強化を図った。

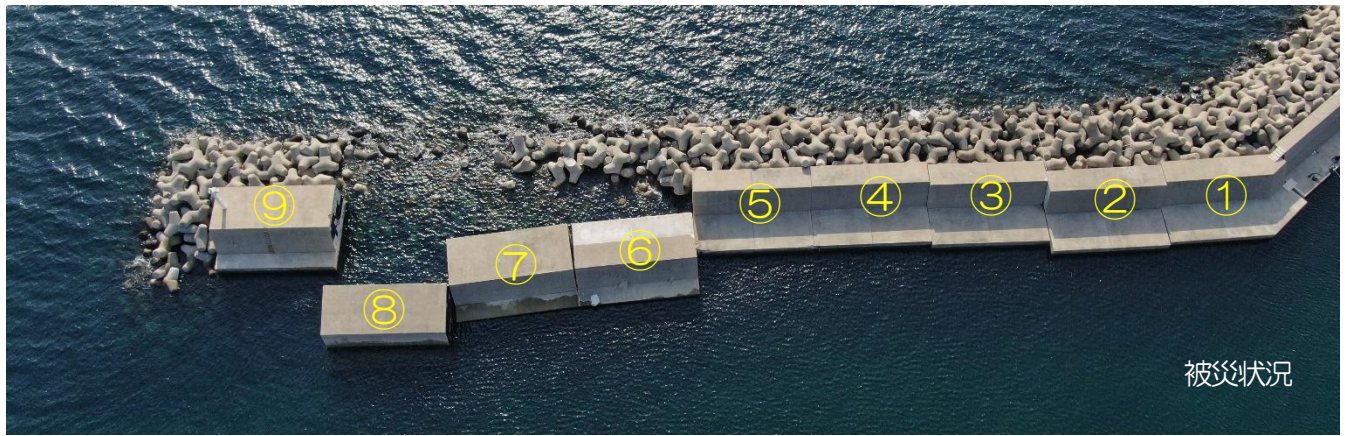
復旧にあたっては、ケーソン2函(⑥・⑦)を再設置するとともに既設ケーソンの中詰め砂及び破砕したケーソンの上部工(無筋コンクリート)をケーソン3函(⑥・⑦・⑧)の中詰め材に再利用することでコストの縮減を図った。

また、水中部の腹付け施工にあたって「残置型枠工法」を採用することで、従来の施工と比較して施工の効率化・安全性の向上を図った。

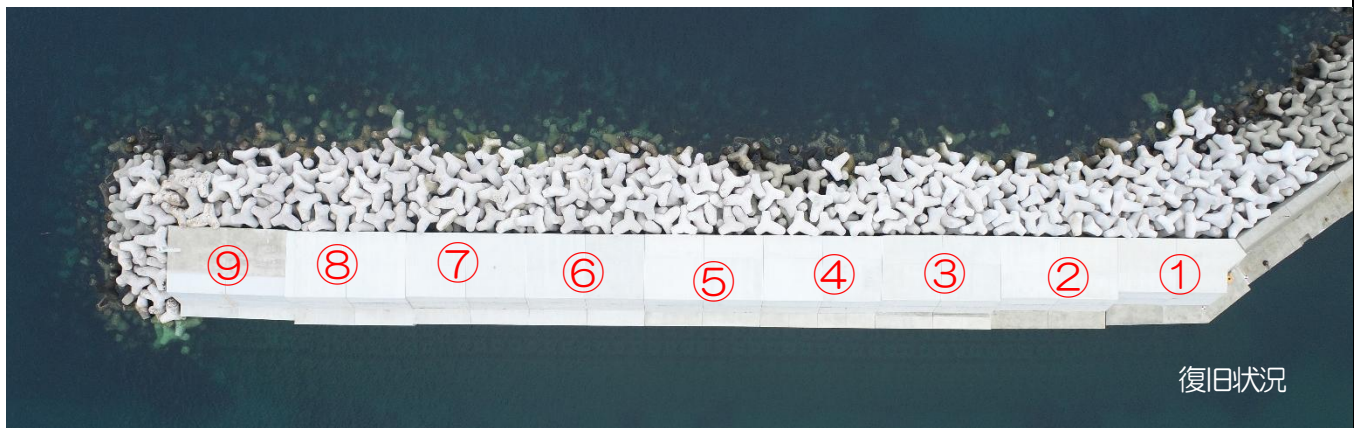
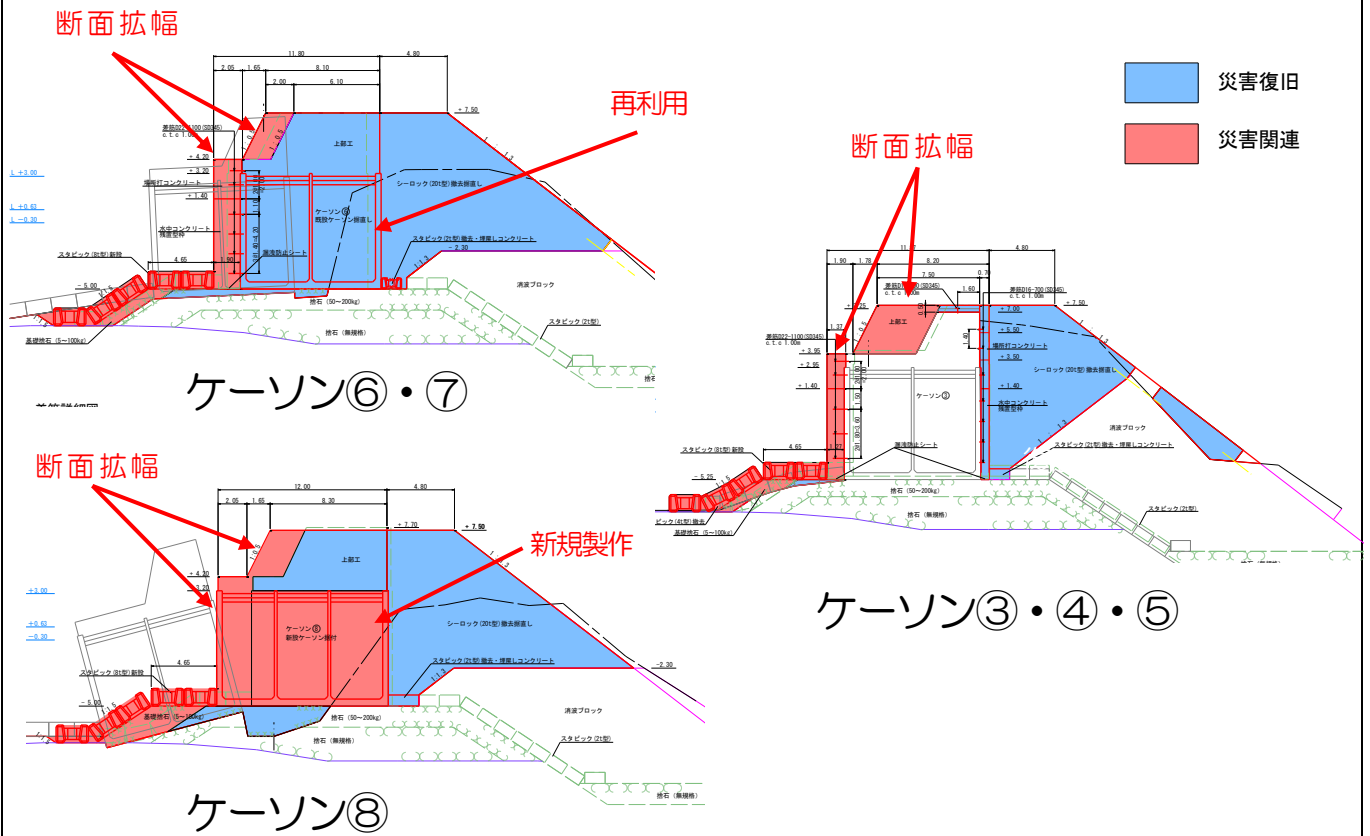


外防波堤(被災時)





被災状況



復旧状況